

経営比較分析表（令和2年度決算）

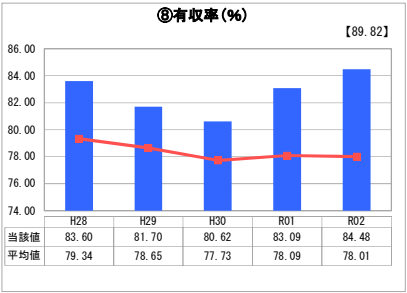
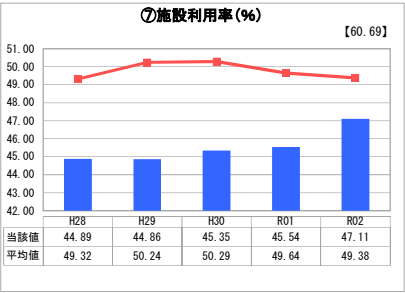
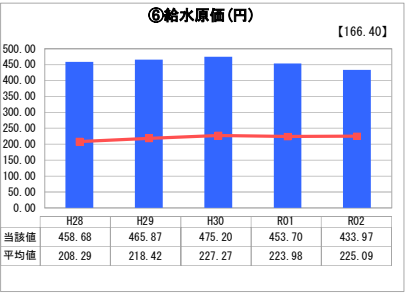
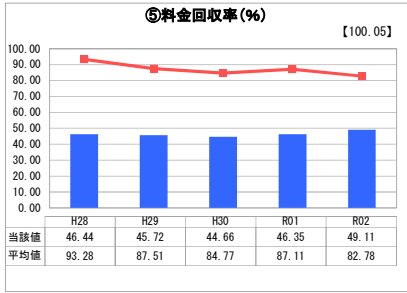
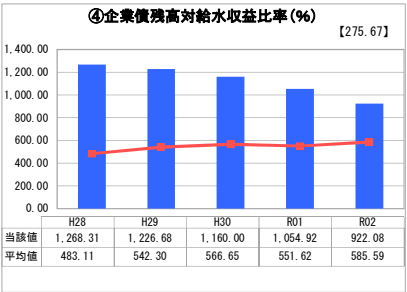
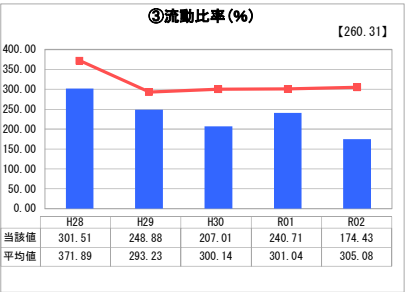
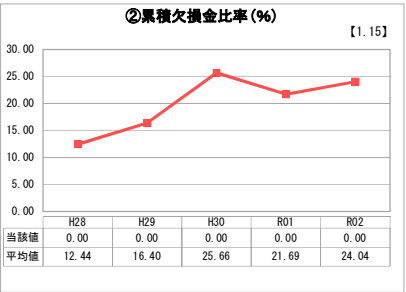
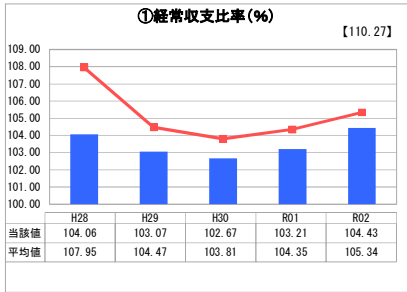
佐賀県 玄海町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	71.28	99.27	4,570	

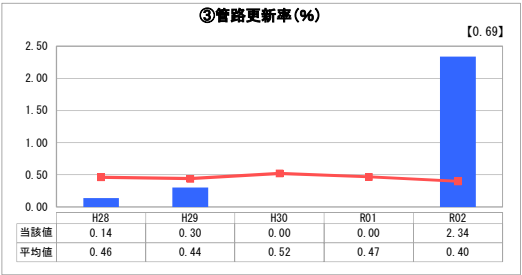
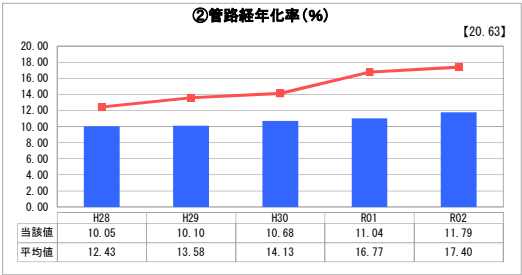
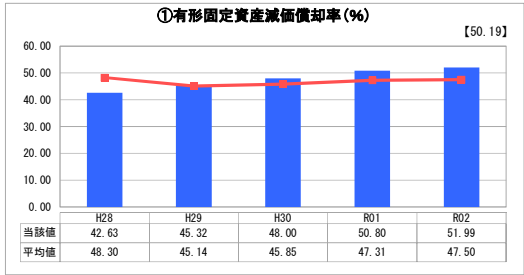
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
5,406	35.92	150.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,313	35.90	147.99

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

玄海町は、①経常収支比率は100%をこえ黒字となっているが、⑤料金回収率は類似団体の平均を大きく下回り50%をきっている程である。これは、水道料金等の営業収益で費用を賄っておらず、一般会計からの繰出金によって収入不足を補填しているからである。また、⑥給水原価が類似団体と比べ近い値段となっている要因としては、山間部が多く、施設を多く必要とするため、電力料や薬品費等の維持管理にかかる費用が高くなっているためである。

③流動比率は100%を超え支払能力については、問題なさそうだが、こちらも繰出金に依存しているというのが現状である。

④企業債比率については、新たに借入を行っていないため減少傾向にあり、企業債元金を全て繰出金で賄っているため類似団体と比べ高い比率となっている。

⑦施設利用率が平均を下回っている要因としては、人口減少に伴い、計画していた給水人口を下回り水需要が減少しているからである。

以上のことから本町の水道事業については、他会計補助金に依存しているという事が課題であり、給水原価の減少等に努め、料金回収率を上昇させていかなければならない。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、H29年から類似団体の平均をこえており、資産の老朽化が伺える。

今後の方針としては、施設の統廃合を行い合理化を図っていく。残りの有形固定資産については、現在検討中である。

②管路経年率については、類似団体と比べ低い数値を保っており、法定耐用年数を超えた管路の保有は少ないと推測できる。

③管路更新率はR2年は工事があり、上昇しているが、年度によって異なっており計画的な更新が必要と思われる。

全体総括

本町の経営状況は、一般会計からの繰出金に依存しており、給水収益のみでは水道事業の運営は厳しいのが現状である。

そのため、これから施設統合や料金改定を行い経営改善を図っていく。